

A T P	アデノシン三リン酸
-------	-----------

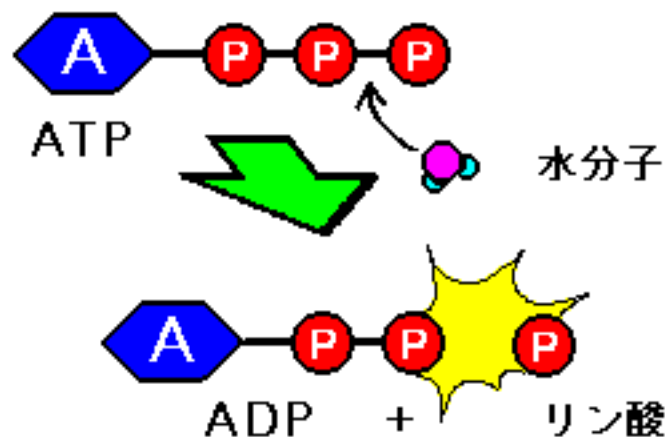
A T P えいていびい

A d e n o s i n t r i p h o s p h a t eの略で、日本語ではアデノシン三リン酸という。動物の細胞内には多くの小器官が存在し、それぞれの役割を果たしている。その一つ、ミトコンドリア（糸粒体）は、多くの場合内側に多数の櫛状突起部を有するラグビーボール状の形をし、基本的には膜構造を採っている。ここには酸素呼吸に関与する酵素群（クエン酸回路系、チトクローム電子伝達系など）が存在する。A T Pはミトコンドリア内で能率よく生産され、これが生物の最終的エネルギー蓄積源となる。放射線の大線量（ $>10\text{ Gy}$ ）によってリン酸化、すなわちA T P生産が低下することが知られている。

アデノシン三リン酸は、アデノシン分子に3つのリン酸イオンがついた大きな分子で、アデノシン二リン酸と、リン酸イオンに分解する。アデノシン三リン酸を付加したタンパク質は、この力を利用して、物質の合成や分解などのさまざまな反応を行う。

<登録年月>

2001年09月



酸化還元反応

アデノシン三リン酸
(Adenosin triphosphate)